

2010.4.1 発行 不老川流域川づくり市民の会 代表 相馬和彦  
 連絡先 04-2965-1741 <http://furougawa.mods.jp/>



トークイベント 「不老川と魚」 3月6日 入曽公民館にて

### 不老川にふくらむイメージ

先日のトークイベントの終わりの頃に「不老川の最高に清流な状態とはどういうものでしょう」という質問があった。科学的に水質の状態を表す数値はあるのだろうが、皆さん、「理想的な川の姿」についてどのようなイメージを抱いたのだろう。

水がきれいで生き物の気配を感じる。特に、魚を見るのは嬉しい。魚を捕りに鳥が姿を見せる。魚が卵を産み付ける草むらがある。草むらにはトンボやバッタ、蝶などの昆虫がいて、かわいい花も咲く。日陰をつくる木がある。子どもたちが水辺におりる。釣り人が糸を垂れ、それを眺める人がいる。土の土手は足に優しく、散歩を楽しむ人が増える。水質が多少悪くても魚は生きる力があるが、魚がいることを知った人は自発的に川を汚すまいとする。人が集まりたくなる川、それが私の理想的な川の状態。それぞれが川のイメージを出し合って川とかかわっていけたら良いと思う。川を知るために年2回でも魚の調査を市民の手でしてみたい、そう思って帰った人はいるはずだ。  
 (村手)



H.T.

ヒトリゴスカ

一人静 白く清楚な花を静御前にたとえたもの。多年草なので、山王塚では4月、同じ場所ですれ違う。去年、咲く場所が増えた。

不老川で魚！の話題が昨年からよく出るようになり、まずは地域の人たちと、語り合ってみようということになった。不老川の魚類調査も手がけてこられた小林さん（新河岸川水系水環境連絡会）が、沢山のスライドを元に新河岸川流域の魚事情を語って下さり、その後参加者で自由な話し合いに入った。

### 小林さんのおはなし



新河岸川流域の川は全体として、河川工事後は落差工がなくなり、魚は増えている。

黒目川では99年から魚調査を始め、工事前は、水槽2コ分だったのが、今では10コ分以上ある。毎月子供達も交えた公開調査を行い、川辺に水槽を並べ道行く人たちに見てもらっている。黒目川も30年程前は汚れていて、その後きれいになっても市民の川への見方がなかなか変わらなかったが、実際に魚を見てもらうだけで意識が変わっていくのがわかる。「魚が川を語る」、「魚が川の大使」であることを実感する。

ナマズやウナギ、マルタ、スジエビも獲れる。ユリカモメが東京湾から朝霞まで日帰りで魚を漁りに飛んで来る。また、落ちアユ（秋に産卵のため川を下るアユ）がたくさん来るが、「落ちアユ禁漁」といったローカルルールを作っている。



朝霞商店会では、黒目川で獲れた魚を店ごとに水槽で展示し、「まるごと水族館の商店街」としてメディアにも取り上げられた。

柳瀬川、越戸川でもアユが上って来ている。

不老川でも、落差工を取ったので新河岸川から上がってきていて魚種も増えていることがわかる。水質は悪くても生きていくたくましさがある。堀兼での工事で、川に変化が付き、瀬が出来て魚の棲息が可能になったといえる。

### フリートーク

#### コイって？

としとらず公園付近に昨年魚が沢山見られた（シロハエ、ドジョウ、フナ、ヤマベなど、放流され居着いたものか）釣り人も現れ、持っ

ていてしまうという話から始まった。錦ゴイがいなくなった。コイは新河岸川から林川近くまで上って来たり、大水で流されたり、上下に移動がさかんようだ。「コイは食欲旺盛で藻から小魚、わが子まで何でも食べ続け、生き続けるやっかいな魚です」と小林さん。フンやヘドロの巻き上げで水質も変わり、川への影響も大きい。親しみある魚だが、ヘルペスだけでなく問題あることをもっと皆に知らせる必要があるという話になった。

#### 河川工事について

昨年秋から突然始まった入曽橋上流の河川工事への不安が出された。工事の泥水が下流まで流れている。魚は大丈夫か？「1、2ヶ月なら大丈夫だが、幼魚には厳しい。泥水を流さない方法はあるので、川越県土にそのような工事を行うよう要請していける」と小林さんのアドバイス。また河川工事では、魚道や淵など魚に配慮した工夫をしているのだろうか？という問いに、「川越県土は落差工の撤去など魚に配慮した工事を行っており、堀兼地区でも瀬や淵が計画されている。しかし、魚の入らない魚巢や上れない魚道を設置しているので、専門家の検証と同時に、川をよく知っている地元の人達の提言が大切だ」と相馬代表が説明がした。問題解決を阻む縦割り行政の問題も出た。

#### ポンプアップをどう考える？

工事で昼間水を止め夜流しているのは何故？という疑問が出され、ポンプアップの話となった。元々水涸れの時期のあった不老川、水なしでも魚は生きられるのか、水源をどうするか、考えること多いという意見。そもそも、永久にポンプアップをして化石燃料を使いつづけていいのか？という発問に対し、「ポンプアップの水で薄める必要のないほどきれいになっており、水量確保だけが課題になっている。年間6千万円の電気代がかかっているため、水涸れの時期だけ放流するよう提案したが、受け入れてもらえなかった」と相馬代表が説明する。電気代の高さに驚きの声があがった。

#### 家庭排水の問題

各家庭できれいな水を流すことが本来ではないか？ここで家庭排水や浄化槽の話で盛り上が

った。合併浄化槽が望ましいと思うが、各個人が管理し切れるか、市町村単位の浄化システムの試みもあるが。下水道普及で何でも流して良いという感覚でいる、など行政や、関連事業に携わる人の苦言があった。油は分解されない、とにかく最低限油だけは、下水道であろうが、川であろうが流さないよう周知徹底すべしという話になった。

### 川の自然は今



ハグロトンボを七曲井のあたりで見かけた話が出た、近所の人話では昔一杯いたという。ハグロトンボは暗い林が必要で、いい川の指標とのこと（小林さん）。昔は、冬の間の水たまりで魚を見つけた覚えがある、入曽橋で針を落としても見える程きれいな水であったと聞いている、などの話が続いた。ワースト1のどぶ川を経て地元の人々の努力もあって魚や鳥が戻りつつある。

### 川を知ってもらうには

いいことを話していても、多くの人に關心を持ってもらわないと力がない。実際の魚を見せるという黒目川の活動は有意義だ。この川でも水槽を並べて川を知ってもらう活動をやらどうか。数字やデータをきちんと知らせる事が必要。また、参加意識というものが大事でゴミ

拾いなど実際の行動が必要だなど意見が出た。

### その他の発言

牛沢でホタルの保護活動してをいる方から不老川上流の自然が豊かに残されている様子の報告があり、柳瀬川源流の会の人からは、継続してやっていると水質の向上が魚類層の変化として見えてくる、今はメダカの群れや卵を持った魚が見られるようになったという話が出た。また、百年に一度の大水に備えねばといわれて戸惑っている話も出た。

### 最後に小林さんから。

治水と自然環境は両立する。川の水質は良くなっている。川をきれいにするには、海を汚さないことであり大きな地球の環境の問題である。モニタリング（魚類調査）をしていくことが人々の関心を川へ誘う効力ある方法である。



色々な角度から不老川が語られ、話は尽きなかった。学ぶこと多かったという声が寄せられた。

（田上）

## 林川でカワモズク発見

去る2月21日入間市宮寺にある狭山ヶ丘高校グランドからの湧水で、カワモズクとアオカワモズク（2種とも絶滅危惧種 - A）を発見した。清流に生え、昔は海草のモズクのように三杯酢で食べたそうです。

林川は不老川の支流で狭山丘陵等の湧水を源流とし、狭山市水野はこの水を引いて「入曾用水」を作り520年代まで生活用水として使っていたと言われ、不老川は冬には水涸れがあったが、林川は一年を通して水があったことを示している。

今回のカワモズクの発見は入曾用水を植物生育の場面から裏付けられたものとして貴重な発見であると同時に、その水が入間市藤沢地区を流る間に家庭排水で汚れたので、「林川浄化施設」を作りきれいにしている現状である。

清流に生えるカワモズクが色々なことを教えてくれるような気がする。



（相馬）

## としとらず公園

### リニューアル決定

狭山市山王中学校近くにある狭山市内では不老川唯一の水辺に降りられる場所として市民に親しまれているが、埼玉県の「川の再生事業」に指定され、地元住民も参加した検討委員会で検討の結果「子供達が魚とりなど安全に川遊びの出来る場」を目指した改良工事を行うことになり、間もなく着工される。

現在多くの魚がいるので、その生育を妨げないような工事をする事と、右岸は草が生えバッタ等もいる土手なので、出来るだけ残すことを前提とした工事である。更に橋のすぐ上流の右岸からの大量の家庭排水については、狭山市が対策を行うことになった。

（相馬）

## 浄化対策 **もっと** 省エネ、節税を

不老川清流ルネッサンス には目標値を設定しているが、水質は基準地点(不老橋)でBOD値が3.9となり3年連続達成し、狭山市境までアユが遡上する等、計画達成に向けて進んでいることが報告された。

当会が提案していた「協議会委員による不老川の視察」は2月5日に行われ、「不老川の実態を知ることが出来た」と座長発言があった。更に、浄化施設は必要性が少なくなったので、省エネの為に運休を提案していたが、久保川浄化施設の休止が決定した。これで年間の電気代約4百万円が節約される。不老川には他に4つの浄化施設があり、休止中の礫間浄化施設(狭山市としとらず荘前)は撤去に1千万円掛かると報告されたが、他の浄化施設も順次、運休、撤去となるであろう。

一方、環流水の放流(川越市の下水処理水を狭山市としとらず荘前で放流)を省エネ対策(電気代年間約6千万円)として魚の生息も考え、水位減少時に放流するよう提案したが、受け入れられなかったことは残念であった。

現在の放流方式を継承することになったが、埼

玉県としては省エネ対策には積極的であり、どのような放流方式が良いか、前向きに検討すべきでないかと思う。「放流量2万9千トンで水深10cmを確保」との計画だが、計画量の放流が出来ず、瀬切れも頻発していると報告され、更に基準地点の不老橋には「水位計がないので常時計測は出来ない」という状態では、計画の進行管理は不可能であろう。

不老川の水質基準は達成されたとはいえ最低の基準(Eランク)で、県内で同ランクの川は2河川だけである。河川改修も遅れているので、自然豊かな不老川を目指して、流域住民として積極的に発言していくべきであろう。(相馬)



地区協議委員の  
上流浄化施設視察

### 今年度の 狭山工区の工事

## あふれる箇所の出る恐れはないか

狭山工区の今後の内容が第4回検討委員会(1月28日)で決定した。

概要は イ、通学路の架け替えと約90cmの拡幅工事 ロ、権現橋下流100mから約90mの拡幅工事と改良型の床止め工、落差工、水制工の設置 ハ、権現橋と新権現橋の間とその上流約130mの護岸工事であり、前年工事と同様相続猶予農地があるので、川幅がでこぼこの工事となる。第4回会議では「前年度工事の欠点である土嚢積み等がそのままなので、提示図面での工事は賛成できない」と反対意見を述べた。

その後、図面を見直したところ、不審な点が見つかったので、(財)リバーフロント整備センター(\*)に行き意見を伺ったら、「問題がある」との指摘があった。主な問題点は イ、土嚢積みは正

式の工事ではなく、応急措置である。口、水位計算に使用した断面図と実際の断面が異なる。ハ、今年度工事でもあふれる部分があると思われる、等である。

その後、川越県土整備事務所に上記問題点を説明した結果、「再検討を行う」との回答であったが、未だ連絡はない。

「上流の床上浸水は軽減されたが、下流で洪水が発生した」では問題なので特に注視すると共に、多自然川づくりにも提言すべきであろう。

(\*)1987年に「河川等の調査研究、技術開発や成果の活用を目的」に設立され、官民共同による「多自然川づくり」の普及と水深を目的として2008「多自然川づくりセンター」を設立した。(同センターのHP抜粋)

(相馬)

ますます深まる七曲井の謎

## 右岸に出現したすり鉢状くぼ地の正体は？

入曽橋付近の不老川は、下水処理水の還流もあって、道路面から3~4m下に、年間あまり大きな水位変化もなく流れている。

入曽橋付近で、不老川に近接する七曲井の水位が、不老川の水位と殆ど関係なく変動していることについては、平成15~16年に実施した私達の入曽周辺の井戸調査の結果でも明らかになっていたし、狭山市教育委員会の文化財担当の職員の方からも「自分達もそれは知っていた」という話をいただいた。勿論、周辺に住む人達も気付いていたことに違いない。

しかし、市の職員の方はこの現象を「水脈が違うのでは」と簡単に片付けてしまって、地質的に見て不思議な現象だとまでは思っていなかったようである。

我々の井戸調査の結果からは、入曽地区の井戸水位の等高線は不老川にほぼ直交し、10/1000程度の水位勾配を持って東流する形を示し、七曲井付近で特別の異常は示していない。周辺のボーリング調査結果でも、深さ20m程度までの地盤は主として砂礫層よりなっていて、七曲井付近に地質的異常があるとは考えられない結果となっている。古多摩川の作る扇状地に狭山丘陵からの湧水や降雨水、入間川などの河川水が浸透して、地下を伏流して東流しているのがこの付近の地下水の形であって、別の起源の地下水流があるという証拠はない。つまり、不老川と七曲井の水位の大きな違いを、合理的に説明できる資料は全く無かったのである。とすると、これは七曲井周辺のごく狭い範囲に人為的に作られた原因によって生じた現象という疑いが強くなってくる。



今回の入曽橋付近の不老川の改修工事による河岸の掘削工事は、「工事によって七曲井と不老川の水位が同じになってしまったら、一種の史跡破壊になる」という危惧と、「これは、この七曲井の不思議を解明する絶好のチャンス」という強い思いを持たせるものであった。この水位の違が

人為的に作られたものに起因することが判れば、工事に際してそれを復元してやればよい。

そんな考えから、工事担当の埼玉県川越県土事務所の了解を得て、平成22年1月27日に掘削断面を観察することになった。



前置きが長くなったが、観察結果の結論を一言で言えば、人為的な原因と考えられる証拠は何一つ見つからなかった。

上の写真で判るように、七曲井側の左岸には埋め土と考えられる黒灰色の粘土質の礫層が表層2~3mを覆っていたが、その下位の河床付近には地山の灰褐色の砂礫層が見られ、仮に埋め土層で水の流通が遮られたとしても、下位の地山の砂礫層を通じて、河川水は七曲井に流入可能な状態にあることが判明した。つまり、七曲井と不老川の水位の違いの謎はますます深まることとなってしまったのである。

今回の掘削現場の観察でむしろ興味をそそられたのは、右岸側に現れたすり鉢状の



埋め立て地形であった(上の写真参照)。明治初年発行の迅速図にはこの辺で不老川が蛇行していた様子はなく、「ミニ七曲井だったら楽しいな」と、暫しの間夢を膨らませることとなった。

しかし、その後、県の文化財担当の方も現地を見られ、市の方とも協議された結果、「迅速図になくとも、かつてこの辺に不老川の蛇行があったのではないかと結論されたということであった。

既に現場は蛇籠で被覆されて見ることは出来ないが、皆さんのお考えはいかが？

小黒 記

## 21年度 市民の会の活動報告

埼玉県の「市民管理協定制度」による5年間の山王塚の雑木林管理は一段落し、記録集を作成した。

問題点を含みながら河川工事も進み、アユが、狭山市まで遡上してきた年でもあった。

- 改修後の不老川見学 4月
- 山王塚市民緑地の管理 記録集作成
- 川歩きクラブ 5月 写真展
- 不老川基本プランの作成作業
- 水質調査 6月
- 第10回大森の池まつり 8月
- 荒川クリーンエイドと芋掘り 10月
- トークイベント「不老川と魚」3月
- 会報「川のささやき」年4回発行
- ホームページ の運営
- 川越 きらりボードの活用  
河畔林の管理（石橋付近）
- 河川工事検討委員会参加  
（狭山工区 としとらず公園）
- 埼玉県河川交流会参加、新河岸川連絡会  
等の活動への参加

埼玉県民の日には環境功労賞を受賞した。永年の活動が認められたものである。

おさそい



### 春の不老川上流歩き

源流を目指して歩きます。

春の土手は野草の宝庫です。

4月14日（水）（雨天中止）

人間市老人福祉センターやまゆり荘

10時出発

（お弁当、飲み物持参）

問い合わせ 村手 2957-3425

### = 流域情報 =

1月23日浦和会館で「川の再生交流会」があり、各地の活動状況と川の再生事業の発表があった。特に、各地の活動報告が40箇所もあった事は特徴的であった。

2月16日川口市で「川の再生モデル5箇所の完成式」があった。旧芝川の完成現場は浄化施設や浮島による浄化等色々な仕掛けが作っており、苦心の程は伺えたが、効果はどうだろうか。

2月20日東村山市の明法中学校で、新河岸川流域川づくり連絡会主催の「川でつながる発表会」があり、大学、高校、中学、小学校の川の活動が状況が報告された。中で、昨年につき、会員の高木尚宏さん作詞の“不老川の応援歌”の発表もあったが一段と上達し、聴衆を魅了した。

### 川づくりに参加しませんか

定例会：毎月第3土曜日13:30～

年会費：1000円 詳細は下記世話人まで

人間市 相馬 04-2965-1741

狭山市 村手 04-2957-3425

所沢市 小黒 04-2923-8946

川越市 高木 0492-43-9828

**編集後記** 「魚って痛みを感じますか？」などなごみの話題も入ったトークイベント。「あの名だたる不老川」で、魚の話が地域の人々のできる日がやってきた。いい川にすること＝川に目を注ぐ人を増やすこと＝川の魚を見せること、が黒目川での活動で見えてきたという講師の話。不老川ではどんな魚が語り部となるだろうか。（H.T）